

学校評価（生徒・保護者編）の考察

平成31年12月

北区立王子桜中学校

実施内容	対象：生徒全員及び保護者全員
	時期：平成30年11月
	回収数：生徒414名(93.0%) 保護者410名(92.1%)

結果の分析

【学校生活全般】

○生徒の8割強が「学校生活が楽しい」と感じている。さらに楽しく、一人一人が活躍できる学校生活を送れるよう、教育活動の充実を図りたい。

◇生徒の85%が学校生活を楽しいと感じており、保護者の86%が子どもが楽しく学校に通っていると感じている。保護者の自由意見にも、肯定的な評価が多く寄せられている。多くの生徒が学校生活の中で、楽しく充実した学校生活を送っていると感じているが、残念ながら12%の生徒が楽しくないと感じている。生徒との面談やQ Uテスト等をさらに有効に活用して、これらの生徒へのきめ細かな配慮を行い、教育活動を進めていきたい。

【学習指導】

○9割の生徒が、自らの授業に対する姿勢を「真剣に取り組んでいる」と答えている。また、ほぼ全教科で昨年度より理解度が上がっており、経年比較でも上昇傾向にある。授業態度の良さを生かし、さらに生徒が興味・関心を持ち、意欲的に取り組む授業を展開し、「主体的・対話的で深い学び」につながる日々の授業の工夫・実践に向けて努力していきたい。

◇生徒の89%が授業を真剣に受けていると答えている。学年別にみると、1年生85%、2年生92%(昨年度81%)、3年生91%(昨年度76%)である。上級生ほど昨年度と比較して授業への集中力が高まり、どの学年も真剣に授業に取り組んでいる様子が見えてくる。この授業態度を学力向上に直結できるように、各教科の指導の工夫・改善に取り組んでいく。

◇生徒の授業に対する理解度は、教科により若干差がある。1年生は技家が7割程度、数学が8割弱であり、それ以外は8割以上である。2年生は数学、音楽、英語が7割程度、社会、技家が8割弱、国語、理科、美術、保体が8割以上である。3年生は数学、音楽が7割程度、社会、理科、技家が8割弱、国語、美術、保体が8割以上である。全学年とも、全教科とも7割以上の理解度となっており、全体的に昨年度より意欲が向上している。特に3年生は、2年生の時より、ほぼすべての教科で上昇している。進路に向けて学習に取り組んでいる姿が想像される。ただ、「わからない」と回答した生徒も1%~12%おり、特に2年生の英語が課題である。来年の進路選択を踏まえ、これらの生徒へのきめ細かな指導を今後行っていく。そして、すべての教科が8割を超える生徒が理解できる授業実践を目指したい。

◇保護者からの自由意見では学力向上のために、理解できていない子のフォローとして放課後の質問教室や補習授業の要望がある。スクラムサポート事業で英語と数

学の個別指導や夏季休業中の補習教室を実施しているが、その広報活動とともに、生徒の学習の定着状況、理解度に応じてより効果的な手だてを考えたい。

【生活指導・特別活動・行事】

○良好な友達関係、生活の決まりをよく守り、委員会、係活動、行事に、よく取り組んでいる。さらに充実した学校生活を送れるよう、取り組ませたい。

◇全生徒の91%(1年94%、2年89%、3年91%)が良好な友達関係を築いている。例年の傾向であるが、2年生は思春期で心の揺れ動く時期でもあり、昨年度より若干低下しているが、9割弱の生徒が良好な友人関係を築いている。保護者は87%が良好な友達関係を築いていると考えている。全体として、様々な取組や行事の中で、学級や学年で協力する心や目標に向かって努力していく心を育てている結果と考えている。保護者もそのような取組みや行事を見て、子どもが充実した学校生活を過ごしている、と感じているようである。ただ、生徒の6%、保護者の11%は友達関係が多少なりとも良好ではないと感じており、特に一部の保護者の我が子の人間関係への不安が読み取れる。家庭とのこまめな連絡を継続しつつ、生徒一人一人の心情をきめ細かく読み取り、指導をしていきたい。

◇決まりを守りきちんと生活できているという割合は、生徒が89%、保護者が86%と、昨年とほぼ同じである。多数の生徒が決まりを守り、規範意識を身に付けていると感じられる。今後も生徒の自主性を重んじながら、着実な生活指導を進めていきたい。反面、生徒の9%、保護者の12%は守られていないようだと感じており将来社会を担う人材として「規則を守る」ことの大切さを、今後も丁寧に指導していきたい。

◇生徒会委員会活動については、生徒の91%、保護者の81%が、学校行事への取組みについては生徒の87%、保護者の86%がよく取り組んでいると答えている。自由記述でも、「体育祭や文化祭など生徒たちも真剣に取り組んで充実した時間を過ごすことができている」という保護者の意見が寄せられた。一方、保護者席やマナーについての要望へも出ており、PTAとも連携して工夫・改善できる部分を検討していきたい。生徒の目標に向かって協力する心や他への思いやりや優しい心を育成するために、行事の精選を進めつつ、さらに内容の充実させていきたい。

【部活動】

○部活動の充実に向けて、さらに努力を続ける。

◇生徒の72%、保護者の77%が部活動に意欲的に取り組んでいると答えているが、昨年度より生徒・保護者とも若干低下している。部活動内での人間関係等、悩みや壁にぶつかっている生徒が増え、充実感が低くなっている様子もうかがえる。部活動委員会や顧問会をより充実させ、顧問の努力だけでなく多方面から部活動運営をサポートする校内体制を整えていきたい。また、保護者の74%が、「部活動は目標に向かって努力する姿勢や粘り強さを育成するのに役立っている」と答えているが、昨年度より8%ほど低下している。部活動に対する期待に対して、様々な要望や意見を考慮しながら、目標に向かって努力する意欲、精神面での強さ、忍耐力、チームワーク等々、部活動を通して育まれる心や体の育成に、今後も継続努力していきたい。

【その他の教育活動】

◇保健室について

「保健室やカウンセリングルームが子供たちの心身の成長に役立っているか」という質問では、保護者の61%が役立っていると答えているが、17%が「そう思わない」、22%が「わからない」と回答している。保護者の自由意見でも、保健室の運営についての意見が出ている。広報活動の充実を図りながら、体や心の健康（保健室）や心理面でのケア（カウンセリングルーム）を、しっかりと対応していきたいと考えている。

◇教育相談活動について

保健室でのきめ細かな心の相談を進め、スクールカウンセラー（SC）との連携をさらに進めていきたい。今年度、火曜日1校時に行っている特別支援校内委員会と金曜日1校時に行っている生活指導連絡会の連携強化に取り組み、より組織的に取り組める体制づくりを行った。生活指導に関わる行動や家庭状況による不規則な生活等を含めた、生徒の心の悩みをしっかりと受け止め、寄り添うことのできる教育相談の充実に、これからも取り組んでいきたい。

◇給食について

今年度から、「食育」の観点を含めた質問項目に変更した。生徒の68%が「給食時間を楽しみながら、自分の身体のことを考えて食事をとっている」と答え、保護者の91%が「栄養バランスを考えて実施されている」と答えている。生徒の食育としての意識はまだ不十分な面もあるが、栄養士が日々の献立や食材について、食育の観点から作成したプリントに対して、生徒は意欲的に回答している。また、世界の料理や日本の郷土料理、生徒の作成したオリジナル献立など、様々な献立の工夫も行っており、今後も学級担任と連携しながら、さらに食への関心を高められるよう、継続して指導していきたい。

【開かれた学校生活への対応】

◇開かれた学校への対応について

保護者の76%が月1回の土曜授業の内容が適切と答えているが、自由意見にはいくつかの要望も出ている。サブファミリーの小学校やこども園との連携を図りながら、より充実した公開授業となるよう取り組んでいきたい。

◇情報発信について

情報の発信は86%の保護者が適切と答え、学校だよりも好評を得ている。一方自由意見には、内容に関する要望も出ており、保護者の情報発信への期待がうかがえる。今後も学校・学年だより、HPや公式ブログなど、より充実した取組を続けていきたい。

◇面談や保護者会について

担任との面談や保護者会での教員との情報交換は86%ができていると答えている。担任を中心とした教員の日々の取り組みの成果とうかがえる。しかし反面、8%の保護者が不十分と回答しており、今後も引き続き、よりきめ細かな家庭との連絡を進めていきたい。

◇王子桜中で学ぶ生徒としての誇り

全校生徒の78%が王子桜中で学ぶことでの誇り、愛校心があると答えているが、残念ながら昨年度より8%減少した。多くの生徒が授業や学年行事、部活動

などに取り組む中で、王子桜中で充実した学校生活を送り、本校で学ぶことの大切さ、楽しさを感じている一方、日々の学校生活に不安などを抱えている生徒がやや増えているといえる。きめ細かな見守りと指導を今後も心がけ、より多くの生徒が、本校で過ごして良かったと思われるような教育活動を今後も進めていきたい。

平成31年度の教育活動の重点

- ①授業の充実と確かな学力の向上 —生徒の学び、教師の学びの深化へ—
 - ・各教科における「深い学び」を実現する授業デザインの探究
 - ・教科や校種を超えた教師の学び合いの充実
(異教科, 異校種の授業参観の実施)
 - ・授業規律の確立(授業時間の遵守、けじめのある学習態度の醸成)
 - ・間違いが許し合える開かれた学びの集団づくり
 - ・学習習慣の育成と学習意欲の向上…「家庭学習アドバイザー」との連携
 - ・「海洋教育スクールプログラム」の推進(お茶の水女子大学との連携)
- ②「王子桜中サブファミリー」を基盤とした小中一貫教育の充実
 - ・授業や保育の質を高める—組織的な授業研究の推進
(北区教育研究協力校として)
 - ・教員相互の授業交流とサブファミリーの研修の充実
 - ・サブファミリーが連携して取り組む生活指導
(あいさつ、生活習慣の向上等)
 - ・保護者、地域と連携した防災・安全教育の推進(避難訓練等の工夫)
 - ・幼児・児童・生徒の交流活動の充実(授業や学校行事等における交流)
 - ・王子桜中サブファミリーの特色としてのNIEの取組の推進
- ③道徳教育の充実と豊かな心の醸成 —よりよい生き方の創造—
 - ・「特別の教科 道徳」の充実と全教育活動を通じた道徳教育の推進
 - ・「考え、議論する」道徳授業の工夫・改善
 - ・保護者、地域と連携した道徳教育の推進(道徳の授業公開の充実等)
 - ・豊かな体験活動とボランティア活動の充実
 - ・地域行事等への中学生の積極的な参加奨励(中学生の社会参画の推進)
- ④組織的な生活指導体制の構築 —いじめや暴力を許さない学校づくり—
 - ・いじめの早期発見・早期対応を図る全校的な指導体制の確立
 - ・不登校生徒へのきめ細やかな校内支援体制の構築、
特別支援校内委員会の充実
 - ・スクールカウンセラー、養護教諭等と連携した教育相談体制の充実
 - ・生徒と教師が率先して行うあいさつの励行と規律ある統一した生活指導
 - ・「ノーチャイム」の徹底と教育活動全体を通じた自主性・自律性の育成
- ⑤学校組織の充実 —「チーム王桜」の確立—
 - ・組織力を強みに、笑顔あふれる支え合う教職員の協働体制の構築
 - ・教職員一人一人の強みとよさを生かし合った学校運営組織の充実
 - ・「巡回拠点・王子桜」の運営・巡回指導の充実
在籍校との緊密な連携
 - ・中堅教員のリーダーシップの発揮、若手教員の計画的育成(OJTの充実)
 - ・部活動に関する組織的な運営体制の充実